

## 「慶雲寺は山の上にあつた！」その一

現在、慶雲寺は上比延町の公民館横にあります。昔（平安時代）は西脇カントリークラブの石仏のあるところから見て、北側にある山（北山）の頂上付近にありました。

なぜ、現在の場所に移ってきたのでしょうか。

上比延町の山上正さんにお話を伺い、その謎に迫ってみました。

平安時代の上比延町の中心地は、青年の家から住吉神社を通って記念池あたりで、特に石仏のあるところは「奥野千軒」といつてたくさんの家がありました。そこから見上げれば慶雲寺が見え、庶民の心の拠り所になっており、そしてまた、薪を集めた時の休憩場所でもあったのでしよう。

貧しいながらも幸せな生活を送っていたある日、一一三二年七月十日夜、平清

盛（たいらのきよもり）がこの地域と慶雲寺を襲い、寺を焼きました。

慶雲寺のお坊さん二人は、このお寺の大切な仏様「十一面観世音」が焼けてしまわないようにと、仏像を持って山の中へ逃げました。

お坊さんは仏像を守るため山の中をさまよい歩きました。しかし、食べるものもだんだんなくなり、一一三三年五月四日に一人、十月二十一日に残った一人が現在の隠れ谷という所で亡くなってしまいました。

さて、その後はどうなるのでしょうか。次回をお楽しみに。

37号（2004年3月）より



北山山頂付近の慶雲寺跡地

## 「慶雲寺は山の上にあつた！」その二

黒田庄町に日時計の丘公園があります。ここは「門柳」という所ですが、ここから上比延町へは山を越えて一時間ぐらいで行けます。

前は、慶雲寺のお坊さんが仏像を守って山中で亡くなったところまでお話ししました。

門柳の村人がたき物を集めに隠れ谷に來た時、亡くなった坊さんと仏像を見つけ、仏像を村に持って帰り、門柳にある「金竜寺」に預かってもらい、おまつりをしてもらいました。

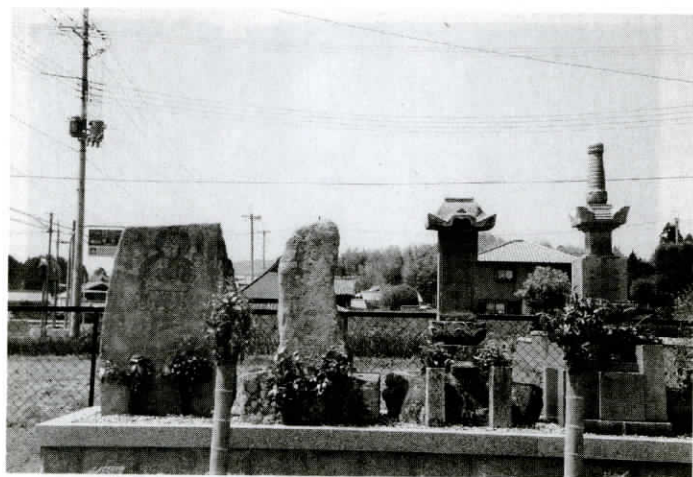
それから六百年が経ったある日（一七二九年）、「金竜寺」のお坊さんが、夢を見ました。その内容は、「仏さんが元の上比延に帰りたい」とおっしゃっている夢でした。

お坊さんは、このことを上比延の庄屋である泰永十郎兵衛さんに相談しました。

十郎兵衛さんは、「それなら上比延に連れて帰りましょう」と、たくさんのお金と田んぼを寄付して、昔と同じ名前の慶雲寺を建て、境内に松の木を植えました。十郎兵衛さんは一七四九年に亡くなりましたが、翌年八月一七日に、仏さんが慶雲寺に帰ってこられたことと十郎兵衛さんの供養のために盆踊りが始まりました。

上比延町の盆踊りが八月一七日に慶雲寺で行われるのはこのことが起源となっています。これだけの歴史のある「盆踊り」、次の世代に引き続けていきたいものです。

38号（2004年5月）より



慶雲寺のお坊さんと泰永十郎兵衛さんのお墓